

お別れ三題

江上信雄(動物)

(1) さようなら理学部の皆様

つい先日、私の還暦誕生日のパーティーをしていただき、永い間に身につけてしまった東大の生活にピリオドを打つ日が近づいたことを感じました。しかしながらこのところ忙しい日の連続で、まだ停年を迎える実感がわいてこないのが今日この頃の正直な気持です。今まで飼育を続けてきた多数のメダカをどのように整理し、今後の研究につなげるか、年末位までにきりがつくように計画した筈の数篇の論文の後始末をどうするか、大学院学生諸君の実験や研究のまとめのことなど、誠にお恥づかしい幕切れになりそうです。

実はそんな自分自身のことよりも、この3月末に60才停年制によって理学部を去ることになった、私より御年配の多数の職員お一人お一人のこと、それらの方々の後補充のことなどが気になります。そのためまだ落ち着いた気持にはなりきれません。そしてどれ程のこともできないもどかしさも感じています。しかし、ともかく永い間勉強させていただいた東大理学部にお別れの日が近づき、今までいろいろ御迷惑をおかけしたにもかかわらず、お目こぼしいいただき自由に勝手に過ごさせて下さった理学部の教官、職員そして学生等の皆様ほんとうに有難うございました。

(2) さようなら樹々達よ、小さな動物達よ

理学部2号館の周辺のケヤキも40年前より大きくなり毎年私の目を楽しませてくれました。寒々とした冬の姿、春から初夏にかけての新緑、よく茂った真夏の美しい葉、そして秋の紅葉と移行行く季節感は改めて思い出となります。台風による樹の損傷、潮風や日照による季節外の枯葉には、自然現象とはいえ何かしら心の痛みを感じましたし、秋の落葉にはこれを清掃する方々の御苦労が

気になりました。今一つ、これらのケヤキや近くにあるサンゴジュなどの樹木と密着して生活している小さな動物達(たとえば数種のクモや美しいダニなど)の四季の変化にこっそりと関心を持ち、朝早く採集や観察をして過ごしてきました。動物といえば、二号館周辺に棲んでいるダンゴムシ、シマミミズ、サカマキガイ、キセルガイ類、コウガイビル、ハリガネムシ、それに数種のハムシなどの細かい動物もまた私の目と心を楽しませてくれていたのです。実はこれらの樹々や動物達との別れにもちょっぴり淋しさを感じています。

(3) さようならクロよ、キャンパスよ

コウガイ(筍)といってもご存知ない方が多いかもしれません。これは昔女性が髪を掻き上げるのに使った小道具で、日本髪の飾りにもなった独特の形をもつものです。私は小学校時代、一時麻布の筍小学校にいたので、特にこの名を知っていました。ところで、理学部2号館や懐徳館の近くにその形がコウガイにそっくりな、コウガイビルが数匹すみついていて、暖い雨の日の朝は時々お目にかかりました。私はこの虫に固有名詞をつけており、その一匹が“クロ”なのです。クロの行動は私にとって興味の対象の一つでしたし、クロの平素の棲み家を発見した時は、これを誰にも話しませんでした。その平静な生活を破りたくない気がしたからです。つまらないことのようにですが、私にとってこのクロとも当分別れなければなりません。クロに限らず、東大の構内にはまだまだいろいろ小さな生物達の棲む空間が残っていることは、うれしいことです。この愛すべき大学のキャンパスが、完全なコンクリート砂漠にならないようであってほしいとひそかに思っています。